

アメリカ最後の戦い | アーサーカチキアン博士

帝国の首を折った戦争：イランはベトナムよりもひどい惨事になろうとしている。そしてワシントンのエリートたちは、自分たち以外の誰も責めることができない。世界中で数千万人が命を落とした後、アメリカの戦争機構はついに自らの重みと、それを生み出した縁故資本主義のもとで崩壊しつつある。本日は政治学者であり南コーカサス情勢に精通したアーサーカチキアン氏とともに、アルメニアとイランからワシントン、ヨーロッパ、国際法、民主主義の失敗、そして旧来の安全装置がリアルタイムで崩れ落ちていく恐怖まで、その衝撃の連鎖をたどる。リンク：アーサーカチキアン

(Telegram) : <https://t.me/artedecco> Neutrality Studies (Substack) : <https://pascallottaz.substack.com> プロフィール設定から学術セクションに登録 : <https://pascallottaz.substack.com/s/academic> グッズ&寄付 : <https://neutralitystudies-shop.fourthwall.com> タイムスタンプ : 00:00:00 イントロダクション 00:00:34 アルメニアと地域への影響 00:04:21 クルド人、代理勢力、体制転換 00:10:04 戦略としての混沌 00:14:53 崩壊するリベラル秩序 00:29:35 聖戦と核拡散 00:44:03 世界大戦と大国リスク 00:57:21 国際法と正戦論 01:10:44 権力に捕らわれた民主主義

#Pascal

皆さん、「ニュートラリティスタディーズ」へようこそ。日本からお届けしているパスカルロットアツです。本日は、政治学博士であり、以前にも番組に出演してくれた良き同僚、アーサーカチキアンさんをお迎えしています。アーサーさん、お帰りなさい。呼んでいただきありがとうございます。光栄です。こちらこそ来てくださって感謝します。では、まずはあなたの母国であるアルメニア、南コーカサス地域について話を始めましょう。今日は3月9日です。私の見方では狂気の沙汰とも言えるイランとの戦争が始まってから、すでに9日経ちました。現在、アルメニアとアゼルバイジャン、南コーカサスでは何が起きているのでしょうか？この地域はいま、どのように展開しているのですか？

#Arthur Kachikian

まず最初に申し上げたいのは、これは前例のない出来事であり、私たちはこれが起こらないことを願っていたということです。過去にも似たような事例はいくつかありましたが、今回は避けられることを期待していました。現在、地域全体を巻き込んでいるこの戦争は、さらに拡大する可能性を秘めた、極めて前例のないものです。これはアルメニアとアゼルバイジャンの国境付近、ジョージアにも近い場所で起きています。報道によれば、この戦争にアゼルバイジャンとトルコを巻き込もうとする試みがあったようです。アゼルバイジャンのナヒチェヴァンではドローンが墜落し、トルコに向けて発射されたとされるミサイルもありました。その後、イランは「我々の仕業ではない」と責任を否定しました。したがって、トルコとアゼルバイジャンを巻き込もうとする意図があるように見えます。

最初の難民たちがアルメニアに到着している——とはいえ、思っていたほど多くはない。今日、最初の原子力施設が攻撃を受けたという報告があり、今のところ放射能漏れはない。しかし、それも考慮すべき点だ。つまり、どこから話を始めればいいのか。これは地域的なレベルでの大惨事だ。そして、これは世界的なレベルでの大惨事でもある。もしよければ、まず地域の話から始めて、その後、希望があればより広い視点での考えも共有しよう。どうぞ促してほしい。さて、まずいくつかのシナリオがあった。ひとつ目は、アメリカがイランを威嚇して自国の要求を受け入れさせようとしているだけだというもの——それは起こらなかった。二つ目のシナリオは、ベオグラード = ユーゴスラビアのケースのように、イランが屈服するまで爆撃を続けるというものだった。

それも起こらなかった。そこで彼らはシリアのシナリオを試みた——ある意味ではリビアのケースとも言えるが——おそらくシリアの方が近いだろう。最初の爆撃の後、彼らはイラン国内の少数民族を利用して民族紛争を引き起こそうとしたのだ。内戦を誘発しようとしたが、それもうまくいかなかった。おそらく彼らの期待は、最初の爆撃の後に反体制派が街頭に出ることだったのだろう。しかし、それも起こらなかった。その後、いくつかのアメリカのメディア報道によれば、彼らはクルド人を利用しようとしたが、クルド人は賢明にも拒否した。なぜなら、彼らはすでにシリアで二度利用され、二度とも見捨てられたからだ。だから彼らは教訓を得たのだ。そして次に、誰かを巻き込もうとする試みがあった——ええと、それは？

#Pascal

確信があるのですか？ それとも、アメリカはまだクルド人と協力して彼らに関与させようとしているのですか？ 最新の情報では、クルド人はあまり積極的ではないようですね。

#Arthur Kachikian

私はオープンソース、つまりテレグラムのチャンネルなどで見られる情報にしか頼ることができません。私にできる最善のことは、さまざまな人々が何を言っているのかを比較することです。アメリカのCNNなど、非常に権威のある報道機関が、アメリカがクルド人と協力していると報じていたの、その部分についてはおそらく事実だと言えるでしょう。クルド人がすでに国境を越えたという報告もありましたが、その後クルド人側がそれを否定しました。さらに、越境を試みたものの、イラン側で銃撃を受けて押し戻されたという報告もありました。ですから、実際に何が起きているのかを正確に言うのは難しいですが、クルド人を利用しようとする試みがあった可能性は十分にあり、それが初めてのことでないでしょう。

イランで民族的少数派を利用しようとするのは理にかなっていると言えるでしょう。もちろん、他にも少数民族は存在します。イラン北部地域には約1,500万人のアゼリ人少数派がいて、さらにバルーチ人やアラブ人の少数派もいます。したがって、もし目的がイランの分裂であるなら、その機会は存在しているのです。そしてそれも理にかなっています。というのも、空爆作戦は成功したとはいえ、イランが反撃に成功したことを考えると、体制を転覆させることにはおそらく失敗するでしょう。確かにテヘランを爆撃して、ガザのような状態にすることはできるかもしれませんが、それでも体制が変わる可能性は低いのです。したがって、いずれの時点かで、双方は行き詰まりに直面することになるでしょう。

どうする？ たとえば、イランのすべての弾道ミサイルを破壊し、すべてのドローンを破壊し、人々を徹底的に爆撃し、さらに165人の10歳の少女を殺したとしよう——まったく恐ろしいことだ。では、そのあとどうする？ どうやって体制を変える？ 結局のところ、「地上部隊を投入する」しかないということになる。そうならないことを願うが、それは自殺行為に等しい。しかし、いくつかの報道——いや、実際にはいくつかの発言——によれば、アメリカはそれを排除していないという。まずは他の勢力、たとえばクルド人やおそらくアゼリ人を利用しようとしたが、うまくいかなかった。そうすると、次の段階としてその手段を検討するかもしれないが、それは完全な大惨事になるだろう。

私はイラク戦争とアフガニスタン戦争について、少し記憶を呼び起こそうと思って本を読んだりドキュメンタリーを観たりしていました。そして驚くのは、私たちが学ぼうとしないということです。学ぼうとしないのです。ある国に侵攻すれば、その国の政府を打倒し、権力構造を変えることには成功するかもしれませんが、ですが、そのとき理解しなければならないのは、あなたが作り出したどんな政権であれ、それが存在しているのはあなたがそこにいるからだという事です。では、その新しい政治体制を支えるために無期限にそこに留まり、イラクで4,000人、アフガニスタンで2,500人の犠牲

を出し、結局「永遠にそこにいられるわけではない」と気づいて撤退する、ということになるのでしょうか。

関心の非対称性、資源の非対称性、そして正当性の非対称性がある。だから最終的には撤退せざるを得なくなり、あなたが作り上げたものはイラクやアフガニスタンでそうだったように、壮大に崩壊するだろう。イランで同じ過ちを繰り返そうとしているのか？ 私の理解では、イランははるかに大きく、人口も膨大だ。この国をどうやって支配するつもりなのか？ また同じことをするのか？ ベトナム、イラク、アフガニスタンの悲劇でもまだ足りないのか——今度はもう一つ、別の悲劇を望むのか。私には理解しがたい。

#Pascal

ちょっとした中断ですが、最近YouTubeから一時的にBANされました。今は復帰していますが、またいつ同じことが起きるかわかりません。ですので、ぜひここだけでなく、Substackのメルリスト (pascallottaz.substack.com) にも登録していただくと嬉しいです。

#Arthur Kachikian

リンクは下の説明欄にあります。それでは、動画に戻りましょう。

#Pascal

わからないな。人々はよく、あれはアメリカが戦争に負けた瞬間だったと言うけれど、私はいつも「いや、違う」と言っている。負けたのは南ベトナムであって、アメリカではない。アフガン戦争で負けたのもアフガン共和国、あるいは何と呼ばれていたにせよ、彼らだ。そしてイラクも——そう、イラクもイラク戦争で負けた。それに今でも、彼らの石油収入はニューヨークで管理されている。政府、つまり議会は、すでに何度もアメリカに撤退を求めているのに、アメリカは「ノー」と言うだけだ。アメリカはいまだにイラクを支配しており、後方支援と空域の支配を握っている。そしてその延長線上にイスラエルもある。それから、リビアについても——人々は「完全な惨事だ」と言い続けている。

そう、リビア人にとってはそうかもしれない——しかしイスラエル人にとっても、アメリカ人にとってもそうではない。彼らにとっては、もし混乱こそが望むものであるなら、それは実際にはかなりの成功だと言える。私の見解では、特にイスラエルの周辺地域における戦略は、膨大な混乱を生み出すことだった。なぜなら、それによって地域を支配しやすくなるからだ。したがって、もしアメリカとイスラエルがイランに対して完全な混乱を望んでいるのなら、絨毯爆撃を行い、通常の市民生活のあらゆる形跡を破壊する——まさにそれが取るべき行動だろう。もちろん、それは極めて残酷な目的を前提としているが、現時点でその目的を否定する理由にはない。

#Arthur Kachikian

そうだとすると、最終的にはあなたが行ったことに対して、政治的にも道義的にも——もしそのようなものがあるとすれば——責任を負うことになるでしょう。あなたはこの国に侵攻し、その内部の政治的均衡を乱し、変えてしまったのです。だから今、もし撤退するなら、その結果に対してあなたが責任を負うのです。タリバンが勝利しました。

#Pascal

いや、そこが問題なんだ——君たちはそうじゃない。アフガニスタンのために木に吊るされたアメリカ人が何人いた？ イラクのためには？ ベトナムのためには？ そのどれかでハーグに送られ、刑務所に入れられた大統領が何人いた？ 彼らには責任がない。彼らが責任を負うことは決してないんだ。

#Arthur Kachikian

はい、その点についてお話しし、その後で一つ所感を共有します。ベトナムでは5万9千人の若いアメリカ人が命を落としましたが、その後カーター大統領はドミノ理論はこじつけだったと言いました。あれは罪です。

#Pascal

100万人以上のベトナム人。

#Arthur Kachikian

ワシントンの政府に対して街頭で抗議していなかった五万九千人の若いアメリカ人たち。

#Pascal

つまり、本当に悪質だとは思いますが、彼らは実際にそういう考え方をしていると思うんだ。だけどアーサー、君の分析を続けよう。全体として、この戦争は勝てるものではないという点はまったくその通りだと思う。では、私たちはどうすればいいんだろう？

#Arthur Kachikian

そうですね、ただ締めくくるために言うと、アフガニスタンでは2,500人のアメリカ人が、イラクでは4,500人のアメリカ人が亡くなりました——両国で殺された何十万人もの人々、そしてベトナムで少なくとも150万人のベトナム人が殺されたことを言うまでもありません。そして、これに対して誰も責任を取っていません。あなたの言うとおりに、これは犯罪です。フランスのことわざにこういうものがあります——「一人を殺せば刑務所行き、五十人を殺せば精神科に行き、百万人を殺せば英雄になって銅像が建つ」と。では、なぜアメリカは同じ罠にまた足を踏み入れるのでしょうか？ なぜ同じことを繰り返すのでしょうか？ どうやら、第一に、ワシントンから非常に危険な宗教的な響きが聞こえてくるようです。

人々は聖書やハルマゲドン、そしてイエスキリストの再臨という言葉で語っている。つまり、これは非常に危険なことだ。私たちには、世界で最も強力な国——核保有国であり超大国——を率いる指導者やグループがいて、彼らが宗教戦争、いわばキリスト教のジハードや十字軍のような話をしているのだ。では次に何が起こるのか？ 次のトゥールーズのレーモンやブイヨンのギヨーム、あるいは獅子心王リチャードが現れるのだろうか？ つまり、ピートヘグセス——彼はまるで少年のように話す。立派な経歴を持つ素晴らしい人物だが、戦いを楽しんでいる十代の若者のように聞こえるのだ。

つまり、これを宗教戦争という枠組みで語るのはかなり危険だということです。私が言いたいのはね、パスカル、私たちが目の当たりにしているのは地震のような出来事だということです。これは国際的な規模の地震です。国際法、国際的正統性、国際世論、国際機関、国連システム、そして1945年以降の世界秩序の終焉です。実際のところ、あらゆる世界秩序の終わりです。均衡という考え方そ

のもの、共通のヨーロッパ安全保障、欧州安全保障協力会議といったものの終わりでもあります。軍備管理の枠組み全体の終焉です。ほとんど——まあ、ご存じのとおり——START（戦略兵器削減条約）は更新されませんでした。

今では、ほぼ包括的核実験禁止条約だけが残っており、それも一応は守られているような状態です。核不拡散体制は崩壊の途上にあります。INF条約——消滅。ABM条約——消滅。欧州通常戦力条約——消滅。オープンスカイズ条約——消滅。何か忘れていませんか？ほかに何かあったはずですが。これらすべての条約が、まるで窓の外に投げ捨てられたように消えてしまいました。軍備管理の全体系が崩壊してしまったのです。相互理解、妥協、均衡によって平和を維持しようという哲学そのものが失われました。私たちは、自由民主主義という夢の終焉を目の当たりにしています。これはリベラリズムの終わりです。

過去400年間、イギリス、フランス、オランダ、アメリカ、そしてその他の著者たちは、人間社会にとって理想的な状態はリベラルデモクラシー（自由民主主義）であると私たちに説いてきました。すなわち、民主主義国家同士は平和に共存し、互いに攻撃することはなく、内政外交の両面で最も理想的な体制であるということです。トマスホップズ、ジョンロック、ジョンステュアートミル、ジャン＝ジャックルソー、モンテスキュー、アダムスミス、ヴォルテール——これらの人々の思想は、今や無関係なものとなってしまいました。私たちは400年前に戻ってしまったのです。400年にわたるリベラル思想が後退しているのです。あなた方は民主主義国家、しかも主要な民主主義国家が、この25年間このような振る舞いをしているのです。人々は私に言います。「アーサー、君は大げさだよ。それはたった一人の問題だ」と。しかし、そうではありません。イギリスもフランスも加わっているのです。NATOの事務総長がこう言っています。「我々は民主主義国家の同盟であり、この戦争に参加する」と。

#Pascal

ドイツの首相が、まさにホワイトハウスの大統領執務室で、アメリカ合衆国大統領の背中を軽く叩きながら「いやいや、この件では私たちはあなたの味方です」と言うのです。

#Arthur Kachikian

そうですね、フクヤマ氏は90年代に戻って、もう一度自分の本を書き直すことができるでしょう。これは終わりです——しかし、歴史の終わりではありません。これはリベラルデモクラシーの終わりです。西洋のリベラルデモクラシーの終わりです。なぜなら、私たちがそれについて知っていたすべてのことが吹き飛んでしまったからです。自由な報道——終わり。世論の力——消滅。ええ、リベラルな価値観——リベラルな価値観を語ると言いながら、165人の子どもを殺してそれについて何も語らない——そんなものはもうなくなった。経済的相互依存、制度的制約——リベラル理論のあらゆる要素が崩壊したのです。そして今、私たちは世界秩序や理想の墓場を歩いている。戦争を防ぐための理想——人類が太古の昔から考え続けてきたことです。ねえ、もし私たちが戻るとしたら——それは何でしょうか？

紀元前13世紀——ラムセス2世とヒッタイトの間で結ばれた最初の条約。いつも名前を忘れてしまうけれど、とにかく紀元前13世紀のことだ。もし私たちがオースティンパワーズのようにタイムマシンに乗って紀元前13世紀に戻り、彼らに「未来の人々よ、我々は知りたい——どうすれば戦争を避けられるのか？教えてくれ」と尋ねられたとしたら、私たちはこう答えるだろう。「実は、私たちは何も学んでいません。何千年もの人類の歴史の中で、まったく何も。」今、私たちは世界秩序の墓地を歩いている。新しい墓がひとつある——それがMAGA（アメリカを再び偉大に）だ。結局、それは虚構だった。そのすぐ隣には、ジョージブッシュシニアの「新世界秩序」がある。数歩先には、ミハイルゴルバチョフの「新しい思考」がある。

少し離れたところには、ウッドロウウィルソンと彼の国際連盟の墓があります。その隣には、19世紀のヨーロッパ協調体制の墓があり、それも崩壊しました。さらにその先には、イマヌエルカントと彼の「永遠平和」の墓があります。そしてそのほかにも、数えきれないほどの墓が並んでいます。以前にも話しましたが、そこにはすべてのリベラルな思想家たちが眠っています。ジェレミーベンサム、ヨーロッパ議会、サン＝シモン、サン＝ピエール神父、シュリー公、ヨーロッパ連邦、ヨーロッパ評議会、ヨーロッパ諸国連盟——すべてがそうです。そこは思想の墓場なのです。人類が自らを制御し、戦争を防ごうとした試みの跡。しかしそのすべてが崩れ去りました。今やそこは巨大な墓地となっているのです。

#Pascal

しかし、理解すべきなのは、それがリベラル派自身の手によって解体されたということです。この種の体制の使徒たちによって解体されたのです。つまり、あなたの国、アルメニアを見てください——EUがあなた方をどう扱ったかを見ればわかるでしょう。民主主義を守りたいと主張するまさにその人々が、自分たちの地政学的な枠組みに合致する限り、最も露骨な権威主義的政治運動を支持しているのです。

#Arthur Kachikian

ええ、もちろんです。私たちには新しい独裁者——新しいサダムフセイン——がいます。彼は私たちの教会の信者、聖職者、野党、そしてジャーナリストたちを逮捕しています。そして彼はヨーロッパの支援を受けているのです。フランスやイギリス、ドイツが、弁護士がフェイスブックに何かを書いたという理由で裁判所の前で地面に押しえつけられることを容認するでしょうか？ カンタベリー大主教が刑事訴追を受けて追われることを容認するでしょうか？あるいはフランスやドイツのどの大主教であっても、政府に反対したというだけで逮捕されることを許すでしょうか？この偽善には本当に耐えがたいものがあります。これこそが二重基準なのです。私は筋金入りのリベラルです——あなたも知っているでしょう。

私はこれを信じています。言ったでしょう、私がソ連で十代だった頃、夜になると祖母の古い短波ラジオを使っていました。午前2時に起きて、ラジオフリーヨーロッパやラジオリバティ、BBCなどを聞いていたんです。私はとても親欧米的で、自由主義的でした。だから、自分が信じていたすべてのものが結局は虚構だったと気づくのは、とてもつらいことです。なぜなら、今「民主主義」と呼ばれているものは、基本的にソーシャルメディアを通じて世論を操作する技術に変わってしまったからです。そして民主主義の中では、政府は有権者に対して責任を負うのではなく、ロビイストや私的利益団体、献金者に対して責任を負うようになっています。これは民主主義の完全な墮落です。

#Pascal

言わせてもらえば、私たちが話しているのは議会制民主主義のことで、実際に大衆を力づけるのではなく、資本主義のエリート版を取り込むほうが簡単なのです。そして言わせてもらえば、スイスに行って政治の仕組みを見てみると、そこにはまだリベラルな夢の一部が生き残っています——もっとも、それは非常に異なる形で包装されていますが。それでも結局のところ、議会制民主主義は特定の集団の利益に取り込まれ、そうした集団はすべて特定の資本主義的枠組みに従っているのです。

#Arthur Kachikian

そう、それは13世紀の模範議会にまでさかのぼるイギリスのモデルです。残念ながら、それは墮落してしまっただけです。そしてあなたはもちろん、直接的な国民投票と「一般意志」を信じたジャン＝ジャックルソーの国の出身ですね。もちろん、それは別のモデルです。しかし、私たちは自分たち

の統治のあり方を本気で見直さなければなりません。なぜなら、民主主義はもはや形骸化してしまったからです。世界の主要な民主国家で起きていることを見てください。これは、私たちが過去400年間大切にしてきた理想すべてに対する、非常に大きな道徳的打撃なのです。

#Pascal

確かにそうですが、そもそもこれらの理想は普遍的に実現されたわけではありませんよね。つまり、最初から女性はその中に本当の意味で含まれていなかったんです。そして忘れてはいけないのは、世界を代表する民主主義国家であるアメリカ合衆国が、北米大陸に存在したひとつの文明の墓場の上に築かれたということです。先住アメリカ人の虐殺は、現代のアメリカ合衆国が成立するための前提条件だったのです。だからそれは最初から「すべての人のためのプロジェクト」ではなく、特定の集団のためのプロジェクトでした。そして議論は常に、「この少数派やあの少数派にも適用すべきか、そうでないか」という形で行われてきました。そして今、私たちは再びその地点に立っているのです。

#Arthur Kachikian

しかし、その後それは皆のプロジェクトになりました。なぜなら、民主主義国家は民主主義を広めなければならないと決めたからです——民主的平和論によれば、民主主義国家同士は戦わないとされているからです。今起きていることを見てください。つまり、平和な世界に生きたいなら、戦争を防ぐために戦争を始めなければならない。自国の民主的制度を他国に押し付けるために戦わなければならない、そうすれば平和に暮らせるというわけです。そしてこれはアメリカの外交政策にとっても大きな悲劇です。というのも、アメリカ——300年前に建国されたこの純粋な共和国——は、自らの道を信じていたからです。ご存じのように、アメリカの建国者たちは、アメリカはヨーロッパの邪悪で古い慣習、すなわちヨーロッパの古い戦争に関わるべきではないと信じていました。

我々はそれを避けるべきだ——いかなる同盟にも巻き込まれるべきではない。我々には新たな使命がある。我々の使命は民主主義と幸福の追求——生命、自由、そして幸福の追求だ。そして今、アメリカ合衆国はこれまでのあらゆる帝国と同じように振る舞っている。合衆国の指導者がこのような行動を取るのには本当に苛立たしい。——つまり、この国にはジョンFケネディ、フランクリンデラノルーズベルト、そしてあえて言えばロナルドレーガンといった人物がいたのだ。もちろん、あなたの聴衆は私を非難するだろう。しかし、これらの指導者たちを生み出した国が、今やまるでローマ皇帝のように振る舞う人物を抱えている。彼は自分に異を唱える国々を罰しているのだ。スペインの首相——称賛に値する——彼には「我々はこれに参加しないし、これを認めない」と言う勇気があった。

私たちは教訓を学びました。すると、世界の皇帝が彼に「そのことで罰を受ける」と告げるのです。これはいつ起こったのでしょうか？ つまり、もしロシアや中国がこんなふうに振る舞ったらどうなるか想像してみてください。クリスティアンアマンプール、アンダーソンクーパー、そしてBBCのピアーズモーガンは、口から泡を吹くほど怒り狂うでしょう。彼らはその話をあまりにもしつこく取り上げて、まるで食器洗い機のように泡が口からあふれ出るほど話し続けるでしょう。普通の洗剤を使うとそうなるんです——私も一度やってみたことがありますが、やめたほうがいいです。本当に泡が大量に出てきます。もし他の国がこんな言い方をしたら、彼らは口から泡を吹くほど非難するでしょう。ところが今、アメリカ合衆国の指導者が、まるで神聖ローマ皇帝のように、世界を代表して語り、聖書を引用し、ハルマゲドンを持ち出しているのです。私たちはいったいどこまで来てしまったのか、わかりますか？

#Pascal

彼自身もすでにそれを発動したのですか？

#Arthur Kachikian

まあ、彼のグループはそうしてきたね。彼自身がそうしたかどうかは分からないけれど、彼の周りの人たちは確かにそうしているよ。

#Pascal

彼のグループがそうであることは知っているし、実は先週そのことについて番組を作ったんだ——実際、パスカルロッターツとの最後の対談もその話題だった。つまり、彼の周囲や軍の中で、どれほど多くの福音派が指導的立場にいるかを考えると本当に恐ろしい。上から下まで、階級を問わず、彼らはまだそこにいる。そして彼らはこの戦争を聖戦として見ているんだ。だからこそ、この戦争がまったく狂気じみて見える理由が説明できる——実際に狂気だからだ。狂気であるように設計されているからだ。だが、そう考えると、全体がさらに恐ろしくなる。なぜなら、クラウゼヴィッツの「戦争とは他の手段による政治の延長である」といった合理主義的な分析でさえ、もはや通用しないからだ。

#Arthur Kachikian

いや、これはまったく非合理的です。特にアフガニスタン、イラク、そしてベトナムの経験を考えればなおさらです。何千、何万というアメリカの若者たち——若い男性や女性たち——が、こうした信じがたいほど愚かな決定のせいで命を落とさなければならないのです。私はイラクやアフガニスタンの歴史を学びながら、いくつかのドキュメンタリーを見ていました。驚くべきことに、首都で決定を下している人々は、何千マイルも離れた場所にながら、現地ですべて何が起こっているのかまったく分かっていないのです。現場にいる人々——いわゆる「その状況の中にいる人々」——と、意思決定者とのこの乖離こそが問題なのです。

彼らはそれを理解しているが、その情報を意思決定の中枢に伝えることができない。そして意思決定の中枢は、誤った前提、個人的な偏見、個人的な意見に基づいて動いている。つまり、反乱鎮圧の考え方——アフガニスタンやイラクで「人々の心をつかむ」などという発想を見てみればいい。完全な失敗だった。だが意思決定者たちはそれを知らなかったのか、あるいは知っていても信じたくなかったのかもしれない。あるいは、他国に入り込んでその国の政治体制を完全に破壊するという発想を考えてみてもいい。これは難しいことではない。誰かの家に入って壁を壊したら、屋根を支えなければならない——そうしなければ屋根は崩れ落ちてしまうのだ。

それから人々は私にこう尋ねるだろう。「アーサー、どのくらいここに滞在するつもりなんだ？ 1時間か、1日か、20年か？ つまり、本当にここに留まってこの体制を維持するつもりなのか？」と。なぜなら、撤退というのは実に単純なことだからだ。軍事介入によって作り出した体制は、あなたがその一部であるからこそ存在している。あなた自身がその一部になってしまったのだ。だから、介入によって権力の構造が変化した。したがって、あなたが撤退した瞬間にそれは崩壊する。なぜなら、それはあなたがいたからこそ成り立っていたものだからだ。その結果、腐敗や「幽霊兵士」などの問題によって、アフガン軍も崩壊してしまうだろう。

それから、イラクではシーア派とスンニ派の間で内戦が起こることになる。難しいことか？ 想像するのが複雑か？ 複雑じゃない。まるで映画『エリンブロボッチ』のジュリアロバーツみたいな言い方になってきたけど、複雑じゃないんだ。そこに行って社会を破壊する。そしてそこに留まるつもりもない。なぜなら、関心の非対称性、資源の非対称性、そして正統性の非対称性があるからだ。アフガニスタンやイラクの人々は、あなたたちをタリバンやシーア派、スンニ派と同じようには見ない。そのことを理解しなければならない。それを理解するのが、そんなに難しいことなのか？

#Pascal

もちろんです。でも正直に言えば、彼らは理解していると思います。リンジーグラハムのような人たちもそうです——彼らはそれを分かっているけれど、気にしないんです。なぜなら、それでいいからです。それで問題ないんです。結局のところ、彼らはたくさんのお金を稼いでいます。二つの大きくて広い海に挟まれて安全です。これ以上ないほど安全で、快適で、幸せで、それがうまく機能していて、彼らや他の人たちに利益をもたらしているんです。つまり、彼らにとって人生はどんどん良くなっているんです。何百万人もの人が死んでも、彼らはまったく気にしません。なぜなら、自分たちを納得させる物語を持っているからです。そして彼らは文字通りこう言うんです。「あの人たちは生きているより死んでいるほうがまだ。なぜなら、それが自由だからだ」と。

つまり、それは機能している。そしてそれが機能しているのは、単に機能しているからだ。進化のようなものだ——進化は、どこかに到達したいとか、人間を作りたいから機能しているわけではない。人間が存在するのは、最終的にそうなるように物事が進んだからであり、それが彼らにとってうまくいっているからだ。アメリカ合衆国が築いた戦争のシステム——ヨーロッパもその不可欠な一部として統合されている——それも機能している。だから唯一の問題は、それが「ブラックスワン」的な事態に至るまで機能し続けるのかどうか、つまり核ミサイルが飛び交い、すべてが機能しなくなるような瞬間が来るのかどうか、ということだ。しかしその時には、もう手遅れだろう。

#Arthur Kachikian

ええ、そうですね。そしてあなたの最後の指摘について言えば、私たちが目にしているのは核不拡散体制の終焉です。なぜなら、今や多くの国々が頭を抱えてこう言うでしょう。「結局、安全でいる唯一の方法は……」と。ちなみに、攻撃が起きたときには交渉が進行中でした。つまり、交渉すら信用できないということです。アリーハーメネイーは家族と一緒に、当時1歳ほどの孫とともに執務室にいたと聞いていますが、交渉が2度目に行われている最中に彼は殺害されました。これでどうやって信頼できるのでしょうか。今、多くの国々がこう言うようになるでしょう。「安全でいる唯一の方法は、実際に核兵器を持つことだ——北朝鮮のように、北朝鮮のモデルに従うことだ」と。

#Pascal

北朝鮮はあらゆる点で正当化されたということだ。つまり、北朝鮮の優れた知恵と優れた理性の前に、私たち全員が頭を垂れることになるなんて、誰が想像しただろうか——彼らはまったく正しかったのだ。明らかに、アメリカと同じ立場にいない国を侵略から守っている唯一のものは、核兵器なのだ。

#Arthur Kachikian

しかし、それにも欠点——つまり不利な点——があります。非常に深刻な欠点です。なぜなら、そうになると他の国々が核兵器を保有し始めるからです。もしイランが核武装すれば、サウジアラビア、トルコ、エジプトもおそらくそれに続くでしょう。核兵器がこの地域に広がり始めるのです。今、マクロン大統領が自国の核戦力を強化すると言っていますが、保有する弾頭の数すら明らかにしていません。つまり、これでNPT（核拡散防止条約）は形骸化してしまったわけです。私は先ほど、無効になってしまった条約の一覧を挙げましたが、これもその一つです。それで、ダン、これにはどんな危険があるのでしょうか？ 私の素晴らしい教授——アメリカで学んだ中でも最高の指導者の一人です。ちなみに、アメリカには世界でも有数の国際関係の専門家がいます。私は彼らを尊敬しています。ですが、なぜこれほどのギャップがあるのでしょうか？ この話題は最初的时候にも話しましたね。

アメリカの国際関係（IR）分野の専門知識と、その政府の外交政策の間にあるこのギャップは、私にはどうしても理解できない。とにかく、彼は160件以上の事例を数えたと思う。数字は間違っている

かもしれないが、冷戦期に「偶発的な核戦争」が起こり得た事例が100件以上あったという。コンピューターの誤作動、人為的ミス——ミネソタ州で熊がフェンスを登ったせいで、配線の接続ミスにより核爆撃機が発進したこともあった。アメリカが攻撃を受けているという誤信号が送られたのだ。核戦争シミュレーションのテープがコンピューターに読み込まれ、それが実際の攻撃と誤認されたこともあった。ノルウェーで打ち上げられた科学観測用ミサイルが、ロシアのレーダーに核ミサイル発射と誤認されたこともある。トルコ上空を飛ぶ鳥の群れが、ソ連の核攻撃と誤解されたことさえあった。

百件を超える事例があります。それを関与する国々の数で掛け合わせてみてください。彼らが冷戦時代のソ連やアメリカのような完璧、あるいはそれに近い組織的な安全策を持っていない可能性を考慮する必要があります。さらに、領土が近いために飛行時間がはるかに短くなることも考えてください。冷戦時代には、私の理解では飛行時間は15分から20分、多くても25分ほどでした。今では、3分もあれば幸運な方です。なぜなら、これらの国々は非常に近接しているからです。現在、我々は超音速ミサイルを保有しています。また、ある種のミサイル防衛システムが、一方の側に「先制攻撃しても報復を受けない」という幻想を与える可能性もあります。したがって、これは冷戦時代のような安定した状況ではありません。これは極めて不安定な状況なのです。

もし核兵器が拡散し始めたら、あなたたちは自分たちが何をしているのか理解していますか？ これは国際的な大地震です。これは国際的な大地震です。ああ、ひとつ小さな点について話していませんでしたね——私たちは1945年以降の体制そのもの、つまり国際システムや国際機関をすべて放棄しようとしているのです。アメリカ大統領は国連を迂回しています。国連関連の機関は30以上あると思いますが、今アメリカはそれらから脱退しつつあります。ですから、これは大地震であり、私たちが持っていたもの、そして国際関係論（IR）について知っていたすべてが崩壊してしまったのです。それから、あなたのもう一つの問い——これは世界大戦なのか？ では、落ち着いて考えてみましょう。みんなが「世界大戦だ、世界大戦だ」と言っていますが、そもそも世界大戦とは何なのでしょう？

それは、ほとんどまたはすべての大国が関与し、複数の大陸または世界の複数の主要地域で起こる戦争です。ですから、現在ウクライナで起きていることを見てみると、これは第一次世界大戦のような規模です。これは本当に悲劇です。100万人以上の若いウクライナ人、ロシア人、そしてその他の人々——さまざまな国籍の若者たち——が今、命を落としています。これは犯罪です。犯罪です。本来なら、ヨーロッパの共通安全保障ネットワークの中で、ウクライナに安全保障の保証を与え、ウクライナの領土を保証し、ロシアの安全を脅かさない形でロシアと理解を築くことで、平和的に解決できた問題でした。あなたの仕事は何ですか？ あなたたちは何のために大学へ行くのですか？

あなたたちは自分たちを外交官と呼んでいる。あなたたちの仕事は、150万人もの若者が殺される前に、対立を交渉によって解決することだ。それがあなたたちの仕事なのに、失敗した。だから今、ウクライナで戦争が起きている。中東でも戦争があり、さらに中国からも、まあ、日本や台湾に関する種の動きが見られる。あとは中国が関与するだけだ。中国が関与すれば、複数の地域で戦争を行う主要な大国がほぼすべて参戦することになる。全面戦争を防いでいる唯一の要因は核抑止力であり、そのために我々は代理的な形の世界大戦を経験するかもしれない——つまり、大国同士の戦争が周辺地域で行われるということだ。

彼らがいつか、たとえば去年か一昨年に起きたようなことを再びやろうとするかもしれないが、あのときウクライナ軍がロシアの核三本柱の一部を攻撃したと記憶している。どうやらそれがロシア人を非常に激怒させたようだ。というのも、そうした行為は核戦争を引き起こしかねないからだ。だから私たちは、パスカル、まさに断崖の縁を歩いているようなものだ。そして私は、今の指導者たちがどんな人物なのかに驚かされる。最初のインタビューのときにも話したが、世界のリーダーシップの水準については、もう話にならない。冷戦時代に世界を導いた人々と今の指導者たちを比べることなん

てできない。すでにいくつかの名前を挙げたが、いっせフルシチョフとジョンケネディを掘り起こして、キューバ危機の教訓をもう一度語ってもらうべきかもしれない。どうやら私たちは、そのすべてをすっかり忘れてしまったようだから。

#Pascal

本当に奇妙な瞬間だよ。アメリカがドナルドトランプとともに暴走すると、ヨーロッパもそれに追従するのを見るのもまた奇妙だ。どうしてそうなるのか、って感じだよ。というのも、私たちが犯している誤りのひとつは、「国益」という枠組みの中で物事を考えてしまうことだと思うんだ。いまだにこの考え方が強すぎるんだよね——おそらく現実主義のパラダイムもそうだけど——国家は自国にとって最善のこと、つまり自国の利益になることを行う、という発想だ。選択肢を比較検討して、バランスを取ったり、ヘッジしたり、云々……そうした国際関係論の中で発展してきた美しい概念の数々は、結局のところ19世紀の世界を理解するために作られたものであり、多くの理論家たちはその枠組みで世界を理解しようとしてきたんだ。

たぶん彼らは、19世紀に事例が尽きたときには、少しローマにまでさかのぼったのかもしれない。だが問題は、そういう仕組みでは動いていないということだ。アメリカ合衆国の行動を理解するには、イスラエルの利益と、この二つのシステムの相互関係を見なければならぬ。これは「一国二制度」ではなく、「二国一制度」なのだ。両国が政治過程において互いに与える影響のためである。ジョンミアシャイマーがイスラエルロビーについて語ったように、問題はこのロビーが影響力を持っているというだけではない。ロビー活動全体の仕組みそのものが、軍産複合体や医療産業複合体などにも発言権を与えているのだ。

そして、それに加えて、大西洋をまたぐエリートたちは互いに親密で、ほとんど文字通り一緒のベッドにいるような関係なんです——エプスタインのファイルからわかったことを見れば明らかでしょう？ 最高層の人々はみんな入り混じっている。ファイルを見てください、名前を見てください。ヨーロッパ人ばかりがそこにいる。日本人の名前はほとんどなく、中国人の名前もほとんどなく、実際のアフリカ大陸出身のアフリカ人の名前もほとんどありません。これは大西洋圏のエリート集団のようなもので、彼らは協力し合い、エリート支配層全体を特定の方向へと動かしているのです。だから私たちはもはや国家という枠組みの中で動いているわけではなく、それを理解するのは本当に難しいことだと思います。

#Arthur Kachikian

いや、本当にがっかりだ。そう、民主主義は乗っ取られてしまった。アメリカも乗っ取られてしまったんだ。私はアメリカ市民で、時々帰国するんだけど、さっきも言ったように、20年前、私が若かった頃のアメリカとはまるで別物だ。国はグローバルエリートたちに乗っ取られてしまったんだ。そしてね、冗談めかして言ったんだけど、ウラジーミルレーニンが夢の中に現れてこう言ったんだ。「学校で教えたことを覚えているか？ 資本主義の世界では、金融と産業のエリートたちが団結する。そうすると、国家を手中に収める多国籍企業が現れ、資源や植民地の分配をめぐる争い始めるだろう」と。

もちろん、これは120年前に彼が言ったことそのままではないが、かなり近いものだ。自らの利益——利潤、世界全体の支配、政府の支配——を最優先するエリート層の形成、これこそが私の言う「民主主義の終焉」である。ロビー団体、献金者、私的利益団体——ここで言うのはイスラエル系ロビーだけではなく、他にも多くのロビーがある——が、アメリカの有権者や、これらの人々のために命を落とすことになる何千もの少年少女、男女よりも、アメリカ政府を動かす力を持っているように見える。そして時が経てば、ヒラリークリントンやバラクオバマのような人々が、イラク戦争は間違いだったと言うのだ。

それなら、そのために命を落とした5,000人の人々——そして何十万ものイラク人たちを取り戻してみろよ。できるか？ 刑務所に行け。少なくとも自分の責任を少しは取る姿勢を見せろ。そうだ、お前はこれだけの人々を殺したんだ。自分の決断に責任を持て。だが、彼らはそうしない。「間違っただけだ」と言い訳するだけだ。イラク戦争についてのドキュメンタリーを見ていたんだが、意思決定者たちがCIAの一部の人間に必要な証拠を作り出すよう圧力をかけていたのは本当に驚きだった。そしてアメリカ国防長官が「根拠が欲しい、証拠が欲しい」と言ったのに、代わりに彼らは「私たちの言葉を信じてくれ」と言ったんだ。

あのとき、彼らは存在しない秘密の研究所や炭疽菌を散布する飛行機の写真をでっちあげたんです。映像は何年も前に撮影されたものでした。そしてあの有名な件——ええと、英語でどう言えばいいのか分かりませんが、あの小さなもの、分かりますよね？ そうそう、彼が振っていた炭疽菌入りのプラスチックです。あれは本当に恥ずかしいことです。その結果は甚大で、そうした決定を下す人たちは、あのような間違いを犯しても構わないと思っているようです。もし私が間違いを犯して、万が一にも生徒の一人がけがをしたら、私は訴えられるでしょう。長い裁判になり、私にとっては悲惨な結末になるはずですが、けれども、何十万人もの人々を殺しても、彼らは何事もなかったかのように立ち去ることができる。それは本当に悲しいことです。

#Pascal

つまり、これは政府の仕組みということですよね？ そもそもあなたがこうしたことを行えるのは、何の不利益も被らないと分かっているからです。でもね、もう一つの問題は、私たちがあまりにも長い間、国家という枠組みの中で物事を考えてきたということなんです。今になって分かってきたのは、いろいろな事象が、いわゆる構成主義者たちの主張——「重要なのは理念だ」という考え——を裏付けているということです。つまり、単なる民主主義でも、単なる権力そのものでもなく、資本主義的イデオロギーが権力を主張し、それを支えるシステムが存在するという事実が重要なんです。そしてさらに、他にもいます。終末を本気で実現しようとする福音派や宗教的狂信者たちが。

そして、彼らがかんがりの影響力を持ち、実際にアメリカ合衆国の外交政策の行動を導いているということです。すると、この種のモデル——つまり「我々、リベラルな西側」という理想——の周りに作られた構造が、他のすべての人々を引きずり込んでいくのです。そしてドイツの首相は、アメリカ大統領の隣に立ち、あるいは座りながら、「いやいや、我々はあなたと共に侵略戦争をしている」と言うのです。イギリスもそれに従い、フランスもそれに従い、そして今や我々の大衆メディア——あの醜い怪物——は、基本的にこのあからさまな侵略戦争を正当化しようとしているのです。つまり、他に言いようがありません。ロシアのウクライナに対する戦争など、今のイラン戦争の影にかすんでしまうほどです。それでも彼らは、どうにかしてこの醜い現実には化粧を施そうとするのです。実に興味深いと思いませんか？

#Arthur Kachikian

そうですね。そして問題は、いったんルールを破ると、他の誰かもルールを破るようになるということです。これは、二十数年前にイラクをめぐる議論の際にバーニーサンダースが言っていたことでもあります。彼は、「もし私たちがこれをやれば、他の国々も同じことをするようになる」と言いました。ユーゴスラビアを爆撃し、国連を迂回したときもそうでした——確かに、介入する理由がありました。民族浄化が行われ、残虐な殺害があり、スレブレニツァやゴラジュデでは恐ろしいことが起きていました。国際社会が関与する必要があったのです。しかし、このように国連を迂回して行動すると、「国連はもはや関係ない」「一方的に武力を行使してもよい」という前例を作ってしまう。そして同じことをリビアで行い、さらにイラクでも行うのです。

それからアフガニスタンでそれをやる。次にアラブの春を始める。そうすると他の国々が「なるほど、じゃあ私たちも同じことをしよう」と言い出す。なぜなら、第一次世界大戦への道は、あなたも知っているように、モロッコ危機、イタリアのリビア介入、バルカン戦争によって舗装されたからだ。つまり、国際社会が周りを見渡して「今まさに起きているのだから、お互いを攻撃してもいいらしい」と思ってしまったのだ。そうして第一次世界大戦への道が開かれた。同じ理屈で、日本の満州介入、ソ連フィンランド戦争、イタリアのアビシニア（エチオピア）侵略戦争、そしてドイツによるズデーテン地方の併合が第二次世界大戦への道を開いた。なぜなら、これらの出来事が国際連盟の無力さを示したからである。

法の支配など存在しない。しかし今、民主主義国家の指導者が「もはや国際法は存在しない」と公然と発言したことは、これまで一度もなかったと思う。そんなことがあつただろうか。思い出そうとしているのだが、アメリカの大統領やその側近たちが、「国際法なんてどうでもいい。そんなものは存在しない。弱肉強食の世界だ。力こそ正義だ」と公言したことがあつただろうか。実際、これはかつてイギリスのボールドウィン首相が演説の中で「力が正義となるような世界秩序には同意できない」と述べたのと正反対の立場である。そして今、アメリカ合衆国の指導者がそれを自らの外交政策の原則として掲げている。非常に危険なことだ。

#Pascal

いや、その通りだ。アメリカ大統領や民主主義国家の指導者が、実際にそんな言葉で表現するような時代はなかった。彼らは実際に行動には移すが、常に「国際法」という口紅を豚に塗るように、体裁を整えようとするんだ。そうだろう？ イラク戦争のときでさえ、彼が安全保障理事会であのフラスコを掲げた理由は、先制的または予防的戦争を正当化するための国際法上の根拠を作ろうとしていたからだ。そして、2003年のあの一連の出来事が、私たちの分野で「正戦論」についての1年間にわたる議論を始めるきっかけになったんだよね。

それは戦争理論の復活だった。そうだ。つまり、今は誰もそれをやろうとしていないから、そんなことは起きていないということだ。彼らはそれが適用されないと主張している。そして今のドイツ人たちでさえ——ドイツのテレビを見ればひどいものだが——CDUの主要人物の一人であるアルミンラシュェットが実際にこんなことを言った。「イランは国際法の背後に隠れることはできない。彼らは常に国際法を破ってきたのだから、今さらそれを盾にすることはできない。以前に破ったのだから、彼らには適用されないのだ。」

#Pascal

この人たち——まるで殺人者や泥棒が法を破ったからといって、その法が自分たちには適用されないかのように振る舞うのは、本当に驚くべきことだ。

#Arthur Kachikian

まさに私が使うたとえです。そのとおりです。

#Pascal

イランについてそれが事実だと言っているわけではありませんが、たとえその主張が本当だったとしても、その類推は成り立ちません。なぜなら、法律は普遍的に適用されるか、そうでないかのどちらかであり、彼らは今、その「そうでない」側を主張しているからです。

#Arthur Kachikian

いやいや、まさに私が使っているたとえばそれはそれなんです。「他の誰かが法律を破ったから自分も法律を破る」というのは通用しない、ということです。そんなことをすれば大きなエスカレーションにつながり、世界大戦に発展してしまう。他の国々も同じことをやり始めるでしょう。私たちが話しているのは「正戦論」についてです。私は歴史が大好きなのですが、この伝統が中世までさかのぼるといえるのは本当に驚くべきことです。当時からこの伝統がありました——武力行使の比例性、非戦闘員を殺さないこと、明確な戦争目的を持つこと、そして暴力に訴える前にあらゆる平和的手段を尽くすことです。

そして、今日あなたと話す前にもう一つ調べたことがあるんですが——この「差し迫った脅威」という話、あれは全く事実ではないんです。この「差し迫った脅威」という概念の根拠として使われた国際的な先例を見てみると、それは「キャロライン号事件」なんです。イギリス側が、攻撃される寸前だと考えてアメリカの船を拿捕した事件ですね。そして当時のアメリカ国務長官ウェブスターが言ったのは、「差し迫った脅威」と認められるためには、他の選択肢を検討する時間が全くなかったことを示さなければならない、ということでした。

その脅威は本当に差し迫ったものであり、それを防ぐ他の方法がまったくない場合に限られなければならない。正確な引用を調べたところ——思い出した。要するに、それは「明白かつ現在の危険」でなければならない。今まさに起きていて、他の選択肢を検討する時間もなく、他に対処する手段もないという状況だ。しかし、交渉はまだ続いていた。そんなことは言えないし、そんな主張はできない。もし法のない世界に生きたいのなら、日本でもアルメニアでも警察を廃止してみればよい——自分で何をを用意しなければならないか、身をもって知ることになるだろう。まったくその通りだ。

#Pascal

まったくその通りです。そして、国際法オタクのリスナーの皆さんのために少し説明すると、「正戦論」には先制戦争 (preemptive war) と予防戦争 (preventive war) の区別があります。許されるのは先制戦争だけです。なぜなら、それは相手側がすでにこちらに向けて武器を構えており、まだ引き金を引いていないだけ、という状況だからです。米国大統領の言葉を借りれば、「照準を合わせ、装填を完了した」状態というわけです。そうした状況下でのみ、先制攻撃を正当化する根拠を築くことができます。それ以外はすべて予防戦争とみなされ、予防攻撃は中世の正戦論の基準でさえ認められていません。

#Arthur Kachikian

私はこの引用を持っています。「自己防衛の必要性は、即時的で圧倒的であり、手段を選ぶ余地も熟慮の時間も残さない。」これは19世紀の判例からのものです。そして、これは多くの国の正当防衛法に少し似ています。私は法律家ではありませんが、原則は似ています。誰かがあなたの家に侵入したとしても——テキサス州に住んでいない限り——ただ撃つていいわけではありません。自分がその状況から離れようとした、または他の手段で解決しようとしたこと、そして自分の生命に明白かつ差し迫った危険があったことを示さなければなりません。そうして初めて、正当防衛だったと主張できるかもしれません。ですから、これは明らかに大きなこじつけです。国際的な制度や原則は損なわれています。交渉という制度そのものが損なわれているのです。

イランは今後どのように交渉を進めるのか、そして6か月後に再び攻撃が起きないという保証はあるのか？ これはガザの道をたどっている——ガザのシナリオ、あるいはフーシ派のシナリオかもしれない——なぜなら、シリアやリビアのようにはならないからだ。その方向に進んでいる。願わくば、こ

れ以上の破壊や民間人軍関係者の犠牲が出ないことを望む。そして数週間のうちに、関係国が仲介国に接触できることを期待したい。おそらく仲介者が介入し、双方が面子を保ちながらこの状況から抜け出せるようにするだろう。アメリカは「イランを打ちのめした」として勝利を主張し、イランは「屈しなかった」として勝利を主張する、そんな形で。

だから、こうしたことは交渉によって何とかなるかもしれませんが。しかし、これは非常に大きな問題です。そしてその根本は1990年代半ばにあります。当時、世界の指導者たちは集団安全保障という考え方を放棄し、何世紀にもわたる国際的思考の知恵を捨て去る決断をしたのです。安全を確保する唯一の方法は、他のすべての人々と協力し、他者の利益を考慮することです。それ以外に方法はなく、唯一成功した例が「ヨーロッパ協調体制」であり、それはまさにその目的のために40年間機能しました。ところが1990年代半ばに、「ロシアのことなんてどうでもいい、自分たちのやりたいようにやる」という決定が下されたのです。そしてその瞬間から、一方が行動を起こせば、他方が対抗行動を取るといった状況が生まれたのです。

こちら側で同盟を築けば、あちら側では対抗同盟が生まれる。自分の地域で介入して政権を変え始めれば、他の国々も同じことをする——介入し、反対側の政権を変えるようになる。それがエスカレーションの法則であり、作用反作用の法則であり、安全保障のジレンマの法則だ。私たちはそのすべてを議論した。ときどき、大学の授業料を返してもらいたい気分になる。なぜ自分が国際関係論を教えているのかすら分からない。あなたも国際関係論の講師だろう——意思決定者たちが国際関係の仕組みや基本原則をまったく理解していないのなら、教える意味があるのか？ いっそ二人で、TikTokで人を魅力的に見せるアプリでも作ったほうがいいのかも说不定。そのほうが稼げるだろう。

#Pascal

いやいや。わかるだろう、問題はこうなんだ。がんは、医者がそれを理解していようがまいが、患者を殺すんだよね？ つまり、がんが勝っていることに苛立ったとしても、それを理解しようとする努力をやめる理由にはならない。悲しいことではあるけれど、これは終末じゃない。つまり、俺たちはただの一世代にすぎないんだ。何百年、いや何千年もの間、「いったいなぜ戦争というやつはこんなにも多くの人を殺し続けるのか」を理解しようとしてきた人々の、また別の繰り返しなんだよ。それでも、何千年経っても、俺たちはこの仕組みを直すことができていない。終点にいるわけじゃない、途中にいるんだ。いい指摘だよ。つまり、俺が思うに、人類という種として、俺たちは暴力——それも国家レベルの大規模な暴力——をある程度うまく管理することに成功してきたんだ。

つまり、小さな単位のレベルでは——そうですね。以前の別の回でも言いましたが、権力分立や抑制と均衡、つまり中央権力を制御して社会を安定させる仕組みという発想を生み出すには、相当な知恵が必要でした。400年前のイングランドやヨーロッパ、あるいは他の地域の記述を見ても、当時の生活はかなり過酷で、短命でした。私たちはそれを克服し、うまくやり遂げ、そのレベルではおおむね上手くやっていると言えるでしょう。ですが、マクロのレベルになると、私たちはいまだに無秩序の中にいます。適切な国際システムが存在しないのです。過去100年で出てきた最良のアイデア——そして私たちが2度試みたもの——は、世界の警察官を作るというものでした。

#Arthur Kachikian

そうそう、でも「世界の警察官」という考え方は大国には通用しないんだ。

#Pascal

それを権力分立や司法制度など、人口を管理するための精緻な仕組みと比べてみてください。そして私たちはただ「クラブを作って押し付けよう」と思いついただけです。まだ全然十分ではありません。

#Arthur Kachikian

あなたは素晴らしい指摘をいくつもしています。もし許してもらえらるなら、少しだけ時間をください。まず、「世界の警察」という考え方は素晴らしいアイデアですが、大国同士が意見を異にするとき（国連のように）、あるいは戦う意志を持たないとき（国際連盟のように）は、うまく機能しません。あなたは国内政治の問題を提起しましたね。イギリスを見てみると——私はイギリス史の専門家ではありませんが、その歴史が大好きです——本当に素晴らしい国だと思いますし、その文化、言語、文学なども愛しています。ですが、イギリスの政治体制の発展の全体像はどうだったでしょうか？ 専制は存在しなかったのです。

専制は存在しない。我々は国王の権力に対して均衡を作り出すつもりだ——マグナカルタからオックスフォード条項、そして名誉革命へと続くように。その理念は均衡だった。均衡がなければならぬ。専制も、一つの権力による支配もあってはならない。均衡である。だが、国際的に起きていることを見てみると——それは専制だ。国際舞台における覇権国の専制である。つまり、国内で成し遂げられたこととはまったく逆のことが起きているのだ。さて、前回話した世界秩序——1648年。戦争の理由は何だったか？ 介入、宗教戦争だ。我々はどうすべきだろうか？

私たちは主権国家を樹立する——干渉はなし。理論上はもちろん、それで再び平和が保たれるはずだ。つまり、主権国家、領土保全、独立、自律——これらが戦争を防ぐと考えられていた。だが、いや、また起こる。次にユトレヒト条約が登場する。均衡だ。重要なのはヨーロッパの均衡を維持することだろう？ 1713年——「ヨーロッパの均衡を保つために」——我々はヨーロッパのバランスを守らなければならない。だが、うまくいかない。ナポレオン戦争が起こり、1815年を迎える。戦争の原因は何か？ 革命だ。ではどうする？ 神聖同盟を結び、革命を抑え、広がらないようにする。オーストリアはイタリアに進軍する。

ロシアがハンガリーに進軍する。ピエモンテでもナポリでも、革命は鎮圧される。私たちは「ヨーロッパ協調体制」を持っている——ヨーロッパ協調体制だ。その理念は、力の均衡を理性的に管理できるというものであり、どの国も過度に強大になってはならない。なぜなら、それは他国を傷つけ、最終的にはその国自身をも傷つけることになるからだ。こうしてヨーロッパでは、クリミア戦争、ドイツとイタリアの統一が起こるまで、約40年間にわたり、ほとんど数学的ともいえる勢力均衡の管理が続いた。そして第一次世界大戦が起こり、その「処方箋」が現れる。第一次世界大戦の原因は何か？ 秘密条約、勢力均衡のための戦争、複雑に絡み合った同盟関係。ではどうするのか？ 私たちは——私たちは——勢力均衡のための戦争に「ノー」と言うのだ。

私たちは世論の力、そして道徳的倫理的なものに頼ろうとしているんです。するとエドワードカーがそれをからかう。そして国際連盟は崩壊する。だから、私たちが何かを築こうとするたびに——これは本当に悲しいことなんです。あなたが最初のインタビューのときに言及していましたよね——ヘルシンキプロセス、1970年代半ばのヘルシンキプロセス、欧州安全保障協力会議。私は自分の人生を逆再生しているような気がするんです。まるで誰かがリモコンの巻き戻しボタンを押したみたい。私の人生は逆行している——1970年代半ばに戻っているような感じです。1970年代半ばの社会を見てください。80年代初期ではなく、80年代半ばです。軍備管理、均衡、共通のヨーロッパ的価値観、新しい思考。これこそ構成主義の根拠となるものでしょう。そして、その後どうなったかを見てください。

ところで、構成主義に言及してくれてうれしいです。私の本のことなども話しますが、とにかく。1970年代半ばには、私たちはすでにこのことを理解していました。ヘルシンキプロセスを始め、共通のヨーロッパ安全保障体制について話し合いを始めたのです。しかしそれも、何度も何度も放棄されてしまいました。あなたが構成主義に触れたように、構成主義者は何を言うのでしょうか？興味のある人のために言えば、「世界の見方が世界を変える」ということです。無政府状態を暴力を生むものではなく、協力の機会を与えるものとして捉えるなら、考え方を考えることで世界を変えることができるのです。ところが、今私たちが目にしたことはまさにその逆を示しています。特定の権力分布が存在するとき——それが私の理論です。まだ証明しなければなりません。

ある特定の権力分布が存在し、ある国があまりにも強大になって何でも思い通りにできるようになると、特定のタイプの人々や世界観が支配的になり始めます。「もし私たちが何でもできるのなら、ああ、たくさんのアイデアがある。政府を変えよう、この地域や他の地域に干渉しよう、介入しよう」といった考え方です。こうした人々にとって、それは権力を握る好機となります。以前にも引用したように、「権力は腐敗し、絶対的な権力は絶対的に腐敗する」のです。アメリカはこのような振る舞いをしていませんでした——まあ、いくつかの地域ではそうだったかもしれませんが、世界的にはそうではありませんでした。アメリカは声を上げ、ソ連のアフガニスタン侵攻を非難しました。覚えていますか、モスクワオリンピックをボイコットしたことさえあったのです。

#Pascal

あなたの考え方には、まだ少しリベラルな色合いが残っていると思います。

#Arthur Kachikian

はい、あります。

#Pascal

なぜなら、私はデイヴィッドギブスと議論をしたのですが、彼はこう言いました。「見てください。アメリカ人はソ連のアフガニスタン侵攻をほとんど不可避なものにしたのです。これは、ソ連を侵攻へと挑発したアメリカのやり方の一部そのものでした。」

#Arthur Kachikian

そうだ、そうだ。ブレジンスキーがそう言ったんだ。彼はインタビューでそれを認めた。彼らが彼に「何万人ものアフガン人の死についてはどう思いますか？」と尋ねたら、彼は「何の話をしているんだ？ われわれは冷戦を終わらせたんだ。それだけの価値はあっただろう？」と言ったんだ。彼はそれがソ連に仕掛けられた罠だったと言った。

#Pascal

そうでした。つまり、ある意味では、アメリカの体制は決して違う行動を取ってこなかった——少なくとも第二次世界大戦以降は。なぜなら、第二次世界大戦以前には「ヨーロッパには関与しない」という方針があったからです。そうですね。第一次世界大戦のときには参戦しましたが、その後また引き下がりました。そうです。ですから、1945年以降、劇的に変わったわけではありません。しかし、この体制——特に、かつてOSSと呼ばれ、現在はCIAとなっているような数々の安全保障機関によって築かれた体制——は進化してきました。私たちは理論の中で、サイコパス的な人物の影響や、そうした人物がどのようにして体制に入り込むのかという点を十分に考慮していません。

そして私たちは、国家の中の国家——CIAなどのような、説明責任を負わず、監査もできず、理解不能なブラックボックス——という概念を本当に考慮していない。確実に言えるのは、彼らが非常に強力な支配力を持っているということだけだ。そして、もし一部のエリートたちがその流れに従わなければ、まあ、マーティンルーサーキングやマルコムX、ジョンFケネディ、あるいはロバートFケネディのような存在になるというわけだ。そうやってこのシステムは自らを維持している。私たちはそれを正しく説明する方法も、それに対処する戦略も持っていないのだ。

#Arthur Kachikian

そうだ、そうなんだ。まるでポリシェヴィキが世界中の帝国主義戦争を非難しておきながら、自分たちで戦争を始めるようなものだ。これは人間の本性なんだ。人間という存在、そして社会の性質でもある。理想的な公式なんて存在しない。そして君の言うとおりで——私にはまだ少しリベラルな色合いが残っている。リベラルな世界、アメリカ、そして西側への信念を捨てたくはないんだ。だが悲しいことに、現実毎日のように私の顔を殴りつけてくる。個人的な意味でもそうだ。というのも、今のアルメニアのひどい政府は、西側の支援を受けながら、批判しようとする者を事実上制裁し、弾圧している。そして私はその一人だ。だから、これは冗談のような話だ。私は自分の理想の犠牲者になってしまったんだ。

#Pascal

本当におかしいよね——いや、「おかしい」って言っても全然笑えない意味で。実際のところ、すごく気が滅入る話なんだ。でもね、結局のところ、僕たちはみんな——いや、違う、つまり僕たちは自分自身の、えっと、自分たちの行動とか、自分たちの仕組みの犠牲者なんだと思う。どう言えばいいのか分からないけど。つまり、この苛立ちを共有している人がどれくらいいるんだろう？ 僕たちはこんな状況を望んでいないのに、いわゆる西側に住んでいるわけでしょ？ 僕の視聴者の多くはアメリカにいるんだ。

#Arthur Kachikian

私たちは皆、こんなふうに物事が進んでほしくない分かっているけれど、現実にはそうになってしまう。そして、それは本当にひどい気分だ。国際関係論（IR理論）はそう教える——それはあなたの望みに依存しないんだ。パスカル、もし少しインスピレーションを得たいなら、コール首相が出席したドイツ再統一の式典の映像を見てみるといい。あの大きな祈りの場面だ。それから、ゴルバチョフとレーガン、マーガレットサッチャーの会談の映像も見てみてくれ。ああ、彼女の名前を口にしてしまった——なんてことだ、お願いだから怒らないでくれ。見てくれよ、君の聴衆は共産主義者ばかりじゃないか！ とにかく、その映像を見てみてくれ。あの映像を見れば、「なんてこった、これが友愛なんだ」と思うはずだ。

「すべての人々は兄弟となる」、そうでしょう？ つまり、私たちは皆兄弟になるという考え方があったんです。見てください、当時の指導者たちは互いに対話し、ベルリンの壁を壊し、ミサイルを解体し、化学兵器を廃棄し、核兵器を廃棄していました。彼らは“共通のヨーロッパの家”について語っていたんです。いったい何が起こったのでしょうか？ 何が？ 何が？ これは1980年代の終わりのことです。その映像を見てみてください。私は自分の若い頃の時代に帰りたと思います。あの頃の私たちはもっと理性的でした。指導者たちも理性的でした。もしかすると、私たちは第二次世界大戦の教訓を失ってしまったのかもしれませんが。第二次世界大戦を経験した世代がいなくなり、そして今、私たちは再びこの狂気の時代に帰ってしまったのかもしれませんが。」

#Pascal

それとも、アーサー、もしかしたら僕たちはただ若かっただけなのかもしれない。単にだまされやすかっただけかも。だって、もし僕の記憶が正しければ、ベートーヴェンはナポレオンの大ファンだったんだ。ナポレオンがついにヨーロッパに理性と平等、友愛などをもたらしてくれると信じていたんだよ。

#Arthur Kachikian

それから彼は自分で自分に皇帝の冠を授けたんだ。そうなんだよ。

#Pascal

1804年。1804年のことだ。そしてベートーヴェンは打ちのめされた。「どうしてそんなことができるんだ？」という感じだった。それは何度も何度も起こることだ。そして君は彼が何をしたか覚えている——そう、彼が何をしたかを覚えている。

#Arthur Kachikian

彼は自分の交響曲の名前を変えた。彼の第3交響曲は本来ナポレオンに献呈されるはずだった。だが1804年にナポレオンが自ら皇帝の冠をかぶると聞くやいなや、彼はその献辞を線で消し、「いや、これはただの英雄交響曲だ」と言った。フランス革命の申し子——自由、友愛、平等——であったナポレオンは、新たな皇帝へと変貌した。六百万人、ヨーロッパは血に沈んだ。人間という存在を見よ。私たちのありさまを見よ。私たちの社会を見よ。私たちは世界のことを何も知らない。まるでリッキージャーヴェイスのような言い方になるが——私たちは世界のことを何も知らないのだ。

#Pascal

いや、でも私たちが本当に必要としている修正は、この永遠にすべてがぐるぐると回り続ける状態そのものを直すことなんだよね？ 破壊から再建へ、そしてまた破壊へ、再び再建へと戻る。この恐ろしい、ほとんど仏教的な永遠の暴力の輪の中に、私たちは捕らわれているようなものだ。そして、どうやってそこから抜け出せばいいのか分からない。仏教徒の人がいたら、何か考えがある？ 西洋的な考え方は明らかにうまくいっていない。キリスト教も、国際的な暴力に向き合うときには機能しないんだ。

#Arthur Kachikian

いや、違う。残念ながら、核戦争の後に立ち直ることはないだろう。もしかすると第二次世界大戦が私たちにとって最後の大きな教訓であり、数十年間はそれを学んでいたのかもしれない。だが今や、どうやら再び学び直さなければならないようだ。悲しいことに、もし核戦争が起これば——神よ、どうかそれだけは——私たちに二度目のチャンスは与えられない。みんなでラテンアメリカに移住して、大気中から降ってくる放射性物質を防ぐためにマスクを着けて暮らす、なんてことにはならない。それは決して楽しいことではない。だからそう、私たちはどうやらこのような循環を繰り返しているようだ。

悲しいことに、私たちはかつて持っていた知恵と、第二次世界大戦から学んだ教訓を失ってしまいました。アイゼンハワー大統領を覚えていますか？ 彼は第二次世界大戦中の英雄であり、私たちに民間の利害団体、つまり軍産複合体について警告していた人物です。彼の言っていたことは正しかったのです。そして悲しいことに、今の私たちはその通りの状況にあります。この狂気が終わり、指導者たちがようやく理解してくれることを願うばかりです。安全を確保する唯一の方法は、集団的な安全保障と集団的な対話によるものだというのを。

#Pascal

問題は指導者ではなく、システムそのものなんだ。私は今でも、これは複雑性の問題だと確信している。80億人——私たちは80億人をうまく管理できるような種ではない。私たちにはそれができず、結局は自分たちを殺してしまう。80億人という複雑さを管理できないんだ。なぜなら結局のところ、ドナルドトランプ——彼は結果であり、はるかに深い何かの症状なんだ。この戦争もまた、はるかに深い何かの症状であり、私たちは今の人口規模でそのレベルの問題をどう管理すべきか、まだきちんと理解できていないんだ。

#Arthur Kachikian

そうですね、確かにこれは大きな危機です。統治の大きな危機です。私たちは、なぜこのような人物が権力を握るのかを調べなければなりません。なぜ民主的な制度が彼らを抑制できないのでしょうか。民主的平和論の一部では、民主的な制度はこのような指導者が戦争を宣言するのを防ぐはずだとされています。ところが実際には、議会がそれを承認したのです。見ましたよね？ 数日前に投票が行われ、戦争が承認されました。

#Pascal

つまり、民主的平和論に対するもう一つの反証というわけだ。彼らは戦争を承認したのではなく、ドナルドトランプがそれを行う権利を承認したのだ。これは憲法違反だよ。つまり、内部的な制約という考えそのものを解体しているわけだろ？ だから…

#Arthur Kachikian

これは大きな危機だ。哲学的にも概念的にも大きな危機だ。私たちは民間の利益団体をどう扱うべきだろうか？ ロビイストをどうすべきか？ 献金者をどうすべきか？ もしかすると、立候補に多額の資金を必要としないような選挙の仕組みを作る方法があるのかもしれない。どうすればいいのかはわからないが、そうすればロビー活動への依存は減るだろう。そしてロビー活動は大きな問題だ——根絶すべき悪だ。選出された代表者は、有権者に対して責任を負うべきであり、私的な利益に対してではない。ロビー活動は禁止されるべきだ。ワシントンには1,500を超えるロビー会社がある——1,500以上だ。これは民主主義ではない。これは金の支配だ。これは寡頭制の支配だ。

#Pascal

いいですね、みなさん。私たちはまたしても、どう続ければいいのか、どう前に進めばいいのか分からないと認めざるを得ない、そんな憂うつな瞬間に立たされています。長年学び続けてきた私たち全員が、結局は同じ状況に陥っているのです——私たちの社会システムがいまだに他者に対して振るう暴力に、途方に暮れているのです。アーサー、あなたの分析や考えをもっと読みたい、あなたをフォローしたいという人たちがいます。彼らはどこに行けばいいのでしょうか？

#Arthur Kachikian

あなたの許可があれば、私のTelegramチャンネルをお送りします。私は自分の本の第1巻を完成させたとお伝えしましたが、今は第2巻に取り組んでいます。希望する方には喜んでお渡しします——それが私からの贈り物です。アルメニアの学生たちや、旧ソ連のいくつかの国々の学生たちにも共有し

ています。私は歴史の中に慰めを見いだします。国際史を読むのが好きです。なぜなら、人々が何世紀にもわたって同じ問題、同じ狂気に苦しみ、同じ過ちを犯し、同じ結果を見てきたことを知ると、ある種の距離感を得られるからです。

つまり、人類という種としては、せいぜい——ホモサピエンスが誕生してからおよそ30万年くらいですよね。そして最初の、いわゆる「ルーシー」とか、ああいうのは——600万年前くらい？ だから、比較的最近のことなんです。どうしたいですか？ 私たちは……進化しなければならない。社会も進化する必要があります。歴史を知ること、私はこの問題により冷静に向き合えるんです。そして本当に、この危機が解決することを願っています。私のTelegramチャンネルのリンクを送りますね。そうしたら、あなたの読者の方々の質問にも喜んでお答えします。

#Pascal

この後すぐに私に送ってください。下の説明欄に入れておきます。アーサーカチキアンさん、本日はお時間をいただきありがとうございました。ありがとう、パスカル。元気を出してね。

#Arthur Kachikian

あなたもね。うん、うん。じゃあね。